



* 立秋 (LE PREMIER JOUR D'HIVER)



11 月も 8 日 “立冬” を迎えると流石に気温も下がり、建物ばかりかメトロやバスなどの乗り物にまで暖房が入りますが、このところ一寸穏やかな天気が続いています。この辺りは朝に晩に霧が立ち込め、湿気で黄色に進んだ枯葉 (les feuilles mortes) が茶色の落葉となって散り積り、窓から見える景色は、松や杉などの針葉樹 (les conifères)、それに木の枝に引っ掛ったようなヤドリギ (le gui) が目立つほかは、木々は黒々と枝や幹ばかりとなり、それだけ空間が増え、北風に寒々とした感じがしています。霜が降りてどの屋根も真っ白となるのも間もなくでしょう。さて “実りの秋”、今年の “ボージョレ・ヌーヴォー” (Beaujolais nouveau) の解禁日は今月の第 3 木曜の 19 日、夏が暑く、ブドウが早く熟して収穫も早めに行なわれ、出来上がりは上々と前評判も高いようですし、ボージョレの他にもトゥールを中心にロワール河やシェール川沿岸地区のトゥーレーヌ (Touraine) 等の新酒も出始めますので楽しみです。しかし白ワインで名高い “シャブリ” (Chablis) など、収穫を前に大嵐 (la tempête) の被害に遭った所もあると聞いています。

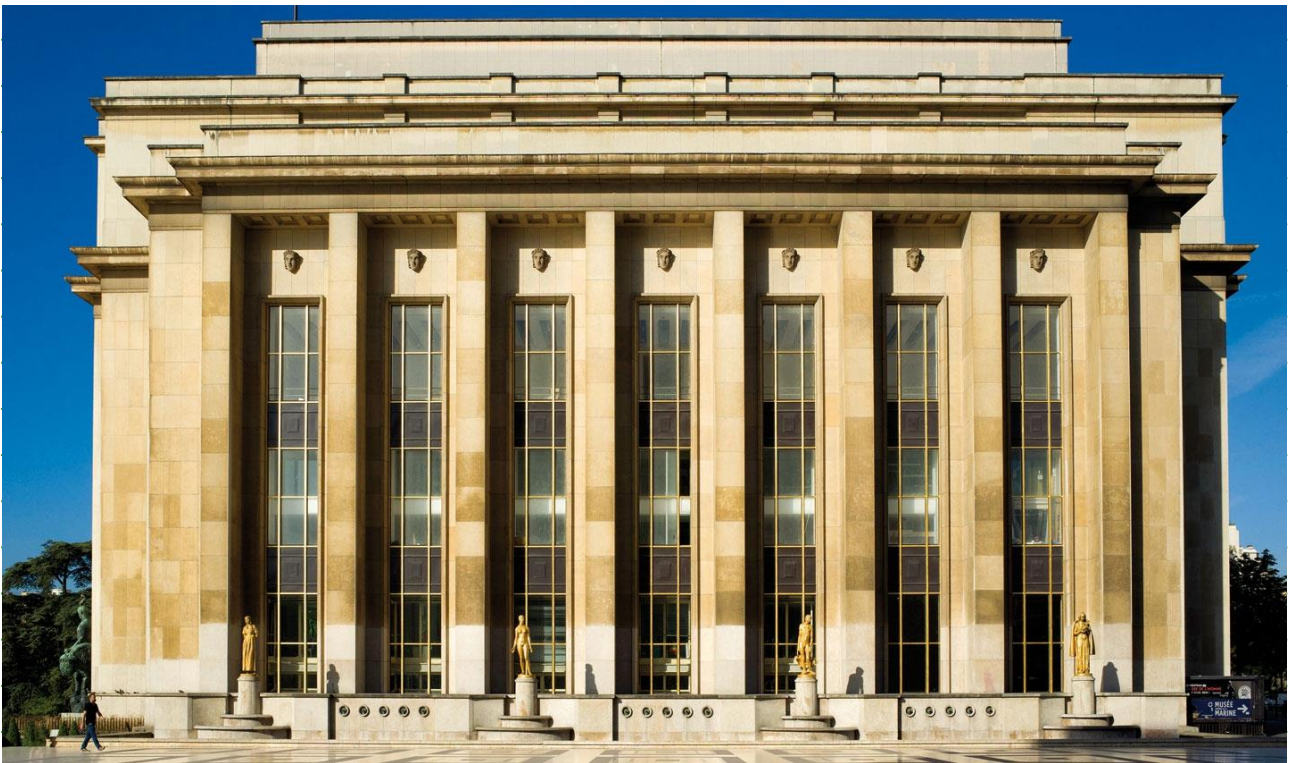
*「限り無きワーホル」展 (Expo. « WARHOL UNLIMITED »)



キャンベルのスープ缶をモチーフとした作品で知られるアンディ・ワーホル (Andy Warhol) は 1928 年 8 月 6 日ピッツバーグの労働者階級 (la classe ouvrière) の家に生まれ、子供時代は神経障害 (un trouble neurologique rare) に罹り、病床にあったのですが、絵画に対する興味が強く、21 歳の時にニューヨークに出て宣伝広告の図案を描く仕事に就きました。デパートのショーウィンドーを飾ったりするうちに、簡単なようで他人が真似する事の出来ないものを創るようになり、評判を得て、後に“ポップ・アート”と呼ばれるまでになり、1964 年に Factory という名で独自の工房を設けて活躍しました。今回はマリリン・モンロー、毛沢東、ジャッキー・ケネディ、といった有名人の顔を何処かメランコリックな表情に影をつけて並べ、或いはサイケデリックな牛の頭を配した壁紙の上に作品を載せた《 Big Electric Chair 》、細かな色の変化を 102 枚の画を貼り合せて表わした《 Shadows 》、花のモチーフのシリーズ《 Flowers 》等々、装飾と云った方がよさそうな作品 200 点余りを展示しています。しかし 200 点余りとは云ってもワーホルの作品のほんの水の一滴に過ぎず (Avec plus de 200 oeuvres, elle reste une goutte d' eau dans la production de Warhol)、1987 年 2 月 21 日、胆嚢の手術を受けた翌日、睡眠中に心臓麻痺の為 58 才で亡くなりましたが、ワーホル亡き後も作品は手品の如く次々に「限り無く」出てくるのだそうです。

パリ市立現代美術館にて 2016 年 2 月 7 日迄開催、月曜を除く毎日 10 時 - 18 時 (木曜は 22 時迄)、入場料 12 ユーロ (Musée d' Art moderne de la Ville de Paris, 11, Avenue du Président Wilson, Paris 16°, メトロ Alma Marceau) www.mam.paris.fr

* “人間博物館”再開 (LE MUSEE DE L' HOMME ROUVRE)



パリの下口カデロ広場(Place du Trocadéro)に面したシャイヨ宮(Palais de Chaillot)内に1937年創設の人間博物館は、展示も当時のまま、暗く人気もない状態でしたが、此の度6年半の改装工事を終え、「我々は誰なのか？」(Qui sommes-nous ?)、「我々は何処から来たのか？」(D' où venons-nous ?)そして「我々は何処へ行くのか？」(Où allons-nous ?)という三つのテーマを設けて人間の歴史を解りやすく物語る展示も新たに再開しました。一見の価値十分にあるものと思いき紹介します。

火曜を除く毎日10時-18時(水曜は21時迄)、入場料10ユーロ(Musée de l' Homme, Place du Trocadéro, Paris 16^e, メトロ Trocadéro) www.museedelhomme.fr

* 滞在許可証更新(LE RENOUVELLEMENT DE TITRE DE SEJOUR) <経験> (1/3)

10年間有効の滞在許可証(CARTE DE RESIDENT)が6月で切れるので、1月早々に居住地の管轄アントニー警察支署(Sous-Préfecture d' Antony)へ行き、行列に並んで中に入り、インフォメーション・デスクに又並んで、更新手続きにはどんな書類を用意すべきか、申請方法、等を尋ねました。口頭での返事は無く、面倒臭そうな表情で投げるようによこした1枚の紙、手続きは何時から受け付けるのか、時間は、、、? 「そこに書いてあるからよく読みなさい。」と初めて口を利いて呉れました。その紙によると私の場合は「有効な旅券(Passeport en cours de validité)、写真4枚(4 photos récentes, 3,5 x 4,5cm)、現在有効な滞在許可証とその表裏のコピー(Photocopie de votre carte de résident recto-verso)、住所・名前を書き郵便切手を貼った返信用封筒(1 enveloppe à votre nom et adresse, affranchie au tarif en vigueur)、既婚者は3ヶ月以内に発行された結婚証明書、フランス語に法定翻訳されたもの(Si vous êtes marié(e) : acte de mariage de moins de 3 mois, traduit en français par un traducteur assermenté)、妻又は夫の滞在許可証又は国民身分証明書(la carte de séjour ou la carte d' identité français de votre conjoint)、居住証明書と

して3ヶ月以内に発行の家賃の支払い証、又は電気・ガスの支払い証(1 justificatif à votre nom de moins de 3 mois : quittance de loyer, facture gaz, électricité , , ,)過去10年間に3年以上継続して外国に住んだことは無いという自己申告書(Déclaration sur l'honneur selon laquelle vous n'avez pas séjourné plus de 3 années consécutives hors en France, au cours des 10 dernières années)を揃え、更新手続きは現在所持する滞在許可証の有効期限の2ヶ月前から受け付ける(Le dossier de renouvellement doit être déposé dans les 2 mois précédant l'expiration du titre de séjour)と記されていました。受付時間は?と尋ねましたら相変わらず無口のまま、指差す方を眺めれば“水曜、土曜、日曜祭日を除く毎朝08時45-11時”と掲示されていました。さてそれからは書類準備に入りました。まず本籍地の東京・港区の区役所戸籍係に連絡して結婚証明書として戸籍謄本を請求、郵送を頼み、住所氏名を明記した返信用封筒、交付代金、郵送費として千円札1枚(持っていたからよかった)を入れて郵送しました。2月中旬でしたかそれが届きましたので、早速に法定翻訳を頼みに行き、ついでに写真屋で規定の写真を撮ってもらいました。3月中旬に法定翻訳も写真も出来上がりましたので、他の必要書類のコピーを撮り、更新手続きに提出すべき書類を揃えて4月を待ちました。(続く)

*クリスマス・デコレーション (LES DECORS DE NOEL)



シャンゼリゼのイルミネーションは11月18日に点灯式、180軒の山小屋風の店が並ぶクリスマス・ヴィレッジ(le village de Noël)も開店、コンコルド広場の大観覧車も回ります。毎年少しづつ時期が早くなっているのはLEDのお蔭、日曜営業の問題も含めフランス人の商魂が目覚めたのでしょうか。

スリにご注意。



2015年11月11日 Armistice 1918 (第1次大戦休戦記念日) 日の出07時52・日の入17時16

パリ：朝夕9℃/日中15℃曇天、ニース：12℃/18℃晴天、ストラスブール：8℃/13℃曇天 お元気で(菅)